

日蓮大聖人御書全集

おおたどののにようぼうごへんじ

大田殿女房御返事

こんじきおう こと

（金色王の事）

新版
1376

おおたどののにようぼうごへんじ こと

大田殿女房御返事（金色王の事）

こうあんがんねん

がつ にち

さい

おおたじようみよう

つま

弘安元年（'78）9月24日

57歳

大田乗明の妻

こめいつこくつ

じゆうう

八木一石付けたり十合。

だいかんばつ

よ

渇

みず

施

ていれば、大旱魃の代にかわけるものに水をほどこして

だいらゆうおう

う

あめ

にんてん

養

飢

は、大竜王と生まれて雨をふらして人天をやしなう。うえ

よ じき

ひと

こくおう

う

くに

たる代に食をほどこせる人は、国王と生まれて、その国

豊

ゆたかなり。

か こ よ

こんじき

もう

だいおう

くに

過去の世に金色と申す大王ましましき。その国をば

は ら な こ く も う

もう

じゆうにねん

あいだかんばつ

にんみん 飢

し

波羅奈国と申す。十二年が間旱魃ゆきて、人民うえ死ぬこ

夥

たくちゆう

しにんじゆうまん

どうろ

がいこつじゆうまん

とおびただし。

宅中には死人充滿し、

道路には骸骨充滿

とき

だいおう

いつさいしゆじよう

哀

多

くら

せり。その時、大王、一切衆生をあわれみて、おおくの蔵

開

せ

たま

くら

なか

たから尽

をひらきて施をほどこし給いき。蔵の中の財つきて、ただ

いちにち

くご

残

そうら

しゆそう

くよう

一日の供御のみのこりて候いし。衆僧をあつめて供養をな

おう

みさき

しゆそう

ばんみん

みな飢

し

し、王と后と、衆僧と万民と、皆うえ死なんとせしほどに、

てん

おんじきあめ

降

たいこくいちじ

ふうき

天より飲食雨のごとくふりて、大国一時に富貴せりと

こんじきおうきよう

説

そうろう

金色王経にとかれて候。

くよう

げんぜ

これもまたかくのごとし。この供養によりて、現世には

ふくにん

ごしよう

りようぜんじようど

たも

福人となり、後生には靈山浄土へまいらせ給うべし。

きようきようきんげん

恐々謹言。

くがつにじゅうよつか

九月二十四日

おおたにゆうどうどののにようぼうごへんじ

大田入道殿女房御返事

にちれん

日蓮

かおう

花押